



## 中国地方観光情報 第七弾

### 山口県編①

山口県大阪事務所は、県下の観光情報の発信や各種イベントPRのほか、Uターン・Iターンのアドバイス、関西・東海地域の山口県県人会の入会業務などを行っています。事務所内には、山口県に関心を持ってもらえよう、県内の物産品の紹介・展示などを行っています。大阪にいながら、親しみを抱いていただけるよう様々な趣向を凝らしています。

### 近代の山口県

山口県は、本州西端に位置し、北は日本海、南は瀬戸内海、西は響灘に面します。九州だけでなく大陸からも近いことから、古来より、海上交通要衝の地、文化交流の場となってきました。関門海峡は瀬戸内海の入り口にあることから、制海権確保の為、幾度となく戦いの場となってきました。

平安時代の源平の戦いでは、源氏の勢いが優勢となると、平氏は幼い安徳天皇を連れて京を去り、西に逃れます。源氏はこれを追って瀬戸内海沿岸の各地で戦い、1185年、現在の下関市の壇ノ浦沖で、最後の決戦が行われました。壇ノ浦の戦いと呼ばれるこの海上戦で、栄華を誇った平氏が滅びたことは有名です。

幕末には、イギリス・アメリカ・フランス・ロシア連合艦隊との下関戦争がありました。平家の時代から、大陸との交易で富を得ていた日本にとって、関門海峡の自由な航行の確保は死活問題でした。一方、日本との交易を目指していたイギリスを始めとする各国にとっては、関門海峡の自由な航行権は、日本との交渉を優位に進めるために、絶対に確保したい権益でした。

結果は、馬関（現下関市中心部）と彦島の砲台が破壊され、各国の陸戦隊に占拠されるという無残なもの。この下関戦争の敗北で長州藩は、尊皇攘夷から尊皇倒幕への転換を迫られることとなりました。他藩に先駆けて、西洋の文化や技術を取り入れ、軍備の近代化を図り、やがて薩摩藩とともに明治維新をすすめる勢力の中心となっていきました。

長州藩が近代化に成功した理由は、地理的な条件だけでなく、関ヶ原の戦い以降、領主の毛利氏が荒地を開拓して田畑を増やしたり、沿岸部を開拓して塩田にしたり、さらには領民にろうそくや紙などの生産を奨励したりと、教育・経済の発展の礎が歴史的に積み重ねられてきたからだと言われています。

日本が近代国家となってゆく明治維新以降、山口県は国家を牽引する人材を輩出します。その多くの人物が萩にある松下村塾に関係のある人たちでした。創立者の吉田松陰は、士

農工商の身分を問わず、藩校での教育にあきたらない武士や、寺子屋で満足できない農民や町人たちに教えを説きました。講義には「飛耳長目」のテキストを用いました。これは江戸、京都、大坂にでかけていた塾生や商人から得た、国内外の様々な情報が綴られたもので、新しい時代の行動の指針となるものでした。門下には高杉晋作、久坂玄瑞をはじめとする錚々たる名前がならびます。また、伊藤博文から安倍晋三に至るまで8人の首相が山口県出身者であることも、松陰の人材育成の伝統が根付いているからといえるかもしれません。

## 県下の観光

秋吉台は日本最大のカルスト大地で、その地下1000mには秋芳洞と呼ばれる3億年の年月を経た総延長10kmにもなる鍾乳洞の迷路が広がっています。石灰岩の成分が雨水に溶け出す事で形作られる鍾乳洞は、今もその姿を変化させています。黄金柱や百枚皿など、洞内の1kmの観光コースに並ぶ大自然が創った芸術作品の数々。また、光の届かない洞窟内には1万5千頭のコウモリや、目が退化したシコクヨコエビなど秋芳洞固有の洞窟性動物も生息しています。

秋吉台の東南には、ながのぼり長登銅山（美祢市）があります。東大寺境内から出土した青銅の化学分析によって、奈良の大仏を鑄造する際に、長登の銅が使用されていたことが明らかにされています。長登という名前は、奈良の都に銅を送った事から「奈良登り」と呼ばれ、それがなまって長登になったとの説があります。

## 詩人 金子みすゞ

東日本大震災直後のACジャパン（旧公共広告機構）のCMで使われた、「こだまでしよるか」という詩。この詩の作者である童謡詩人の金子みすゞの故郷は長門市です。金子みすゞは26歳で自ら命を絶つまで512編の詩を綴りました。故郷の長門市仙崎は、北前船の寄港地であり、捕鯨が盛んでした。鯨とれたら七浜潤うといわれたほど。みすゞは浜の潤いをみて、次の詩を書きました。

## 鯨法会

鯨法会は春のくれ

海にとびうおとれるころ

はまのお寺で鳴るかねが

ゆれて水面をわたるとき

村のりょうしがはおり着て

はまのお寺へいそぐとき

おきでくじらの子がひとり

その鳴るかねをききながら

死んだ父さま母さまを

こいしこいしとないてます

海のおもてをかねの音は

海のとこまでひびくやら

子くじらの心境を悲しむ言葉から、優しい心情が伝わってきます。生前のみずぶの活動はほとんど知られていませんでしたが、作家の矢崎節夫によって遺稿集3冊が発見され、故郷仙崎での聞き取りなどを通じて、ようやくその生涯が明らかになりました。今では、JR仙崎駅前の記念館に足跡を訪ねることが出来ます。同じく長門市三隅には世界的な洋画家 香月泰男の作品を収蔵する美術館があります。2年間のシベリヤ捕虜体験を描いた代表作「シベリヤシリーズ」に加え、3月25日までは厨房の風景を描いた「くらし展」が展示されています。



観光船と島の風景（長門市 青海島）

山口県大阪事務所  
大阪市北区梅田2の4の13 阪神産経桜橋ビル2階  
06・6341・0755

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

（株）ファッションビジネス・御堂筋新聞